

お知らせ 防災情報専用端末の無料貸し出し開始！

スマートフォンや携帯電話、固定電話をお持ちでない方にとって、これまで防災行政情報を受け取る方法は、防災無線(屋外スピーカー)しかありませんでした。

しかし、防災無線の音声は風雨の影響や住宅の防音機能の向上により、聞き取りにくい場合が多くありました。

「戸別受信機」で素早く・確実に防災情報を把握できます

そこで八代市ではいざという時、防災無線だけに頼ることになっている方に、より迅速かつ確実に防災情報を届けられるよう、スマートフォンや携帯電話、固定電話をお持ちでない方を対象として「戸別受信機」を無料で貸し出す制度を開始いたしました。



※ 総務省消防庁の資料から

高齢の方や目の不自由な方にも、音声で情報をお届けします



戸別受信機

- 自動的に音声を読み上げられるので、難しい操作は必要ありません。
- ボタンひとつで履歴再生可能。
- 停電時には自動的に内蔵電池での動作に切り替わります。
- 普段はコンセントにつないでください。

申請用紙は、鏡支所の危機管理課、各支所、各コミュニティセンターにあります。

通信端末をお持ちの方は、市の防災・行政情報等の受信が可能

New (1) 防災アプリ「@infoCanal」

Android 用



iPhone 用



リニューアル (2) 登録制メール

空メール送信先



登録されたメールアドレスに市の情報を配信します。スマートフォンをお持ちでない方、アプリの登録が難しい方はこちらをご活用ください。

本会報誌は後援会役員メンバーで編集しております。

災害時に欠かせない支援物資 西濱議員の全国ネットが威力を発揮！

平成28年4月14日夜、最大震度7の地震が熊本県熊本地方に発生。さらに、その28時間後の16日、マグニチュード7.3の大地震が襲いました。

その後も激しい余震が続き震源域は拡大、なお活発な地震活動は続き予断を許さない状況に変わりはなく、本市においても多くの市民の皆さんが長期の避難生活を余儀なくされました。

熊本地震 愛知県新城市から避難所用の段ボール届く！

そのような中、西濱議員が「若者政策」を通じて先進市である新城市とかねて独自の交流を持っていたご縁から、965kmもの道のりを経て、避難所用の段ボール1,500枚を本市へ届けていただきました。段ボールは本市の様々な場所で活用させていただきました！

八代市広域行政事務組合 消防本部



消防資機材搬送車にて本市に到着

搬入先①「太田郷公民館」



プライバシーの保護にとっても役立ちました！

搬入先②「やつしろハーモニーホール」



ボランティアの高校生の皆さん

そもそも土足フロアとして利用されていたハーモニーホールは、県内で発生したノロウイルス事案を受け、日赤病院から土足エリアをすみ分けするよう指導がありました。そこで、搬入されていた段ボールの一部を土足フロア全面に敷詰めました。この活用(転用)により、ハーモニーホールは避難所としての機能を維持することでき、閉鎖を免れました！

搬入先③「植柳小学校体育館」



植柳小学校に搬入した段ボールは、のちに防災教育の学習教材として活用されました！

搬入先④「八代高等学校体育館」



子供たちが段ボールにお絵かき避難生活にやすらぎの空間が生まれました！

令和2年7月 コロナ禍の被災地に、いち早く「ハイテク機器」が届けられました

八代市を含む球磨川流域では、7月3日夜から4日朝にかけて活発な梅雨前線の影響で、各観測地点で観測史上最大を更新する記録的な豪雨に襲われました。激甚災害に指定され、のちに「令和2年7月豪雨」と名付けられる未曾有の水害により、本市では、一時期300人近くの被災者が避難所に身を寄せておられました。

長期化が見込まれる避難生活では、新型コロナウイルスなどの感染症の予防を含めた衛生環境面の支援が急務であります。そのような中、かねて西濱議員とお付き合いのある全国の有志の皆様から、本市に次の支援物資が届けられました。

東京都の有志から届けられた『屋外対応リサイクルシャワー』

人工知能(AI)を搭載。水道いらず、自動で繰り返しろ過し、排水の98%が再利用可能。断水した福祉避難所(坂本の里一灯苑)横の市有地に4基設置！



メディアでも紹介されました



7月12日～13日、断水した福祉避難所(坂本の里一灯苑)横の市有地に設置



西濱議員です

被災地の断水による水不足や衛生面の問題を解消

広島大学の久保達彦教授(公衆衛生学)は、「お風呂に入れない。手を洗えない。食事を加熱できない。といった衛生環境の中での感染症の問題が大きくなってきている」と指摘。

こうした問題の解決にAIを用いた水循環テクノロジーが挑みます。汚れの成分を分析し、最適な浄水処理を施すことで、実に**98%の水が再利用可能**になるという優れものです。



入浴が1週間できなかったという被災者からは「大変助かった。気持ちよかった」という声がありました。

AIを使った最先端技術にマスメディアや専門家も注目



「ガイアの夜明け」で紹介されました
(7月22日放送)



TKUニュースでの報道
(8月9日放送)



AIやセンサーを使って水質を最適化
(ABEMAニュース放送)

兵庫県の有志から届けられた『除菌噴霧器』

※除菌噴霧器とは、除菌・加湿など多目的機能を備えたミスト式の噴霧器です



西濱議員です

※避難所となった千丁コミュニティセンターに2基配置！

国土交通省が宮地小学校で出前講座 (10月21日)

7月の豪雨災害を題材にした防災の出前講座が宮地小学校で開かれ、5年生の児童24人が模型を使った実験などを通じて災害への備えや知識を学びました。



国交省の防災等に関する講座は、一般の皆さんもご利用できます。
お問い合わせ⇒河川国道八代事務所 TEL32-4135 (代表)

市議会にて西濱議員が「コロナ禍での新たな災害時の避難のあり方」等を提案

西濱議員は、令和2年6月議会において「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえての災害時の新たな避難のあり方等について」をテーマに様々な提案をしています。



スマホまたはタブレット端末にて
西濱議員の登壇の様子の動画を音声付きでご覧いただけます。



国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、1981年～2000年には20年に一度しか起こらなかった大雨が、2046年～2065年には十数年に一度、2081年～2100年には8～10年に一度、平均すると生じるようになる、とも指摘しています。洪水の場合、地域により違いが大きいのですが、日本付近では、20世紀における100年に一度の洪水が、21世紀には、10年に一度程度になるという研究結果も示されています。

どのような自然災害に対しても、100%の安全が保てるように防災設備の整備を図ることが現実的に可能か、という問題はありますが、それでもなお私たちは手を携えて、不確実性を伴う危機に「備え」「戦う」強い意志を持って立ち向かっていかなければならないと考えます。